

症候を呈し死亡した例を含む。

以上、北海道における二次検索、治療を行う上でのシステム、1981年度に発見された児について報告した。

## 2. TSH スクリーニングで発見出来なかった原発性甲状腺機能低下症の1例

北海道大学医学部小児科	松浦 信夫
	野原八千代
北海道衛生研究所	市原 侃
大阪大学医学部小児科	野瀬 幸
	豊 徹
	原田 徳蔵
	牧 一郎
	藪内 百治

TSH スクリーニングで発見されず、5カ月時にクレチン症が明らかになった一例を経験した。新生児期、クレチンスクリーニングの所見を中心に報告する。

症例：N. Y. 昭和56年3月25日生。

GIII, PI, ABIIの母親より出生した。父親30才，母親29才。在胎41週+4日。帝王切開にて出生，APS 6点（5分），生下時より systemic cyanosis を認め，酸素マスク，吸引施行後未熟児室 NICU に収容された。生下時体重 2,940 g，身長47.3cmで満期産にしては著しい低身長がみとめられた。

経過：出生時胸骨左縁第4肋門に Levine 3/6 収縮期雑音を認めた。補液，酸素療法で軽快し，生後7日目にはほとんど雑音は消失した。生後2日目より黄疸が出現，計3回の光線療法を行なった。生後27日目，体重 3,385 g で退院した。入院中の検査成績を表1に示す。高コレステロール血症，GOT，GPTの高値はなく，大腿骨遠位端のエピフィーズは9×7mmと大きく認められた。

表1 Laboratory findings (8 D/O)

GOT	13 IU/L	Na	137	mEq/L
GPT	4 "	K	4.5	"
LDH	304 "	Cl	102	"
LAP	64 "	Ca	8.4	mg/dl
BUN	16.6 mg/dl	P	3.8	"
Creat.	0.1 "	T-Chol	159	"
T-Bil.	15.1 "			

スクリーニング：4月2日採血検体は4月6日道衛研にて受け付けられ（検体ナンバー AC86118）、6月9日～11日、Assay №54（総検体数452）で測定が行なわれた。採血状態は良好であった。栄研 ICL 社製クレチン TSH（PA 法）キット（ロット番号 CTSGKIDA、検定日4月13日）で測定された。標準曲線は良好で、高低両コントロール検体も正常に検出されていた。測定値のヒストグラムにも特に異常は認めなかった。平均値 $5.08 \pm 2.30$ （S.D.） $\mu\text{U/ml}$ （全サンプルの平均）で患児の値は $6.15 \mu\text{U/ml}$ であった。3 Percentile 以上の検体は14検体でその分布は $9.82 - 14.54 \mu\text{U/ml}$ であった。この検体は再検され、一部は再採血を行ない調べたが、クレチン症はみとめなかった。種々の工程、操作上検体が入れ替る可能性はないと考えられる。

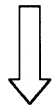
考案：遷延性黄疸を認めた以外特にクレチン症を思わせる所見がなく、スクリーニングの結果、大腿骨遠位端の骨核の大きさ、T-chol, GOT, GPT の所見より、少なくとも新生児期には機能低下症はなかったと考える。生後6ヶ月時の骨年齢が6ヶ月（手根骨2ヶ）であった事、 $T_3$ が $100\text{ng/dl}$ 以上であったことは未治療無甲状腺性クレチン症では考えられないことと思われる。道衛研における cut off は3 Percentile 以上のものを再検査し、再度3 Percentile 以上の検体について再採血を行なっている。最近初回検査で3percentile ぎりぎりの症例が、再採血、精検と年齢が進むにつれ機能低下が顕著になった2症例を経験している。スクリーニングが行なわれ、異常なしと報告されている乳幼児でも少しでもクレチン症が疑われる症状を認めた場合、積極的に検査をする必要があると考えられた。

## 慢性甲状腺機能障害の疫学と予後に関する研究報告書

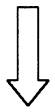
札幌市衛生研究所 高杉 信男  
福土 勝  
荒井 修  
水嶋 好清  
佐藤 勇次  
林 英夫  
北海道大学医学部小児科 松浦 信夫

### 1. 札幌市におけるクレチン症マス・スクリーニングの成績

1978年6月から1979年6月までに TSH 測定により24,173例、1979年7月から1981年3月までに TSH,  $T_4$  両者測定により37,134例、1981年4月から12月までに TSH,  $T_4$  両者測定に TBG 測定を加えて15,384例、合計76,691例のスクリーニングを行った結果、15例のクレチン症を発見した（発生頻度 $1/5,113$ ）。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



TSHスクリーニングで発見されず,5ヵ月時にクレチン症が明らかになった一例を経験した。  
。新生児期,クレチンスクリーニングの所見を中心に報告する。